AOS株式会社にかほ工場

にかほ市誘致認定企業
市内唯一のゴム製品製造業

■「コミュニケーション」を大事にする職場です

私たちは、にかほ工場の2期生として平成27年4月に入社し、成型や検査の仕事をしています。学校卒業後、新しい工場に憧れ、ゴム製品の製造に興味を持って入社しましたが、最初の頃は、工場が開設して間もなかったため、試行錯誤しながら仕事を覚えていきました。毎年若い従業員が入社し、今では、自分達も教わる立場から教える立場となり、コミュニケーションを大切にしながら技術の継承を行っています。

会社の特徴としては、若い従業員が多いことと、従業員同士が活発にコミュニケーションをとりながらお互いの仕事をフォローしあうことで、コミュニケーションが苦手な人でも安心して働ける環境があることです。

また、現場には製造設備が多数設置されていますが、ゴム部品の製造工場としては国内でも最高レベルのクリーンな工場で、メーカーの工場監査でも「非常にきれいな工場」と評価されています。

今後も、ゴム製品製造のオンリーワン企業として発展できるよう会社に貢献していきたいです。

企業情報

当社は、昭和59年5月に創業し、主に工業用のゴム製品を製造しています。にかほ工場は、平成27年2月に県内3箇所目の工場として新設、最新の大型製造設備と金型加工設備を導入・整備されたクリーンな工場です。主な製造品目は、自動車用の精密ゴム部品、産業用リチウムイオン電池の防水・防塵ガスケット、ガス・水道配管継手用シール、医療および化粧品容器部品等で、当社の製品は外観からは見えないけれども暮らしの中のさまざまな所に使われ非常に大事な働きをしています。平成29年12月には経済産業省から地域の経済活動を牽引する「地域未来牽引企業」として認定され、ここ秋田から世界品質の製品を海外に届けています。

- ▷所在地　にかほ工場：にかほ市黒川字岩潟 15-2
  本社：秋田県山本郡三種町豊岡金田字堀切 126-1
- ▷業種　製造業
- ▷主な業務　Oリング、ガスケット等工業用ゴム製品の製造・販売
- ▷従業員数　50人
- ▷電話　74－6311
- ▷ＦＡＸ　74－6135
- ▷e－mail　ホームページに問い合わせフォームあり
- ▷ホームページ　http://www.akita-aos.com/

市では、「にかほｂｉｚまるっと！」に掲載する市内企業を募集しています。
若者や女性の採用に積極的な企業やイチ押しの魅力などを持っている企業を紹介します。
詳細は市ホームページをご覧いただくか、商工政策課（☎43－7600）までお問合せください。

市長コラム
創造を想像する

にかほ市と仁賀保高校

■若者たちによる未来提言

2月3日、にかほっとにて、「水循環都市としてにかほ市が飛躍するためには何が必要か」をテーマに、「若者がミズから描く未来討論会」が開催されました。

当日は、秋田大学、秋田高専、中央大学、専修大学の大学生チームの他に、唯一の高校生チームとして地元の仁賀保高校生徒会が参加しました。数カ月にわたる調査・研究により積み重ねられた提案や意見は、いずれもレベルが高く、すぐにでも施策に反映できるくらいのものでした。その中でも仁賀保高校の発表については、観衆から「仁賀保高校アッパレ！」という声がでるほど優れたものだったと思います。

■地方創生と高校生

現在、高校生と地域との新たな関係づくりが求められています。このことは、平成30年6月に政府が閣議で示した創生基本方針２０１８の中に、地方創生のけん引役としての高校生の役割を随所に明示したことからもわかります。

去る1月15日、市は仁賀保高校と連携協定を締結しました。それは、柔軟な発想を持つ高校生に、地域の一員として、まちづくりに積極的に参加してもらいながら、地域課題の解決に取り組んでもらおうと考えたからです。

もっとも、これまでも仁高生の皆さんからは、情報メディア科の生徒による各種ポスター制作、学校全体によるトライアスロン支援など、実にさまざまな場面で市内行事や活動に参加してもらってきました。

今回の協定締結は、これまでの仁高生による活動をオフィシャルなものにするためのものでもあります。そして、市は彼らの活動に相応の支援をしていくことになります。

■仁賀保高校の価値

県立仁賀保高等学校は、市内唯一の高校であり、市にとって不可欠な存在です。その意味では、他の県立高校とはまた別の意味合いがあると言えます。

県は、平成28年度に策定した「第7次秋田県高等学校総合整備計画」の中で、由利本荘にかほ地区について、「西目高校、仁賀保高校および由利工業高校を視野に入れて、（中略）関係者との調整を図りながら統合の検討を行う」としています。にかほ市にとっては大変深刻な話です。

確かに、人口減少地域では、高校生の数の減少による定員数の確保は重要な課題です。しかしながら、合理化だけで高校をなくすべきではありません。高校を失った地域の人口流失の実態から見ても、仁賀保高校の存続は市の存亡に係わる重大な問題なのです。

では、市は何をすべきか？

確かに、市はこれまでも二度にわたり県当局および関係機関に存続の要望をしてきました。私は、さらに踏み込んで、存続に向けた強い意思表示が必要と考えました。それが今回の連携協定締結のもう一つの背景です。

この連携協定には、まちづくりに向けた具体的な事業案が多数盛り込まれています。それら事業を実施するには、市民の皆さんの理解と協力が必要です。仁高生の皆さんと市民が一丸となってまちづくりに取り組んだとき、仁賀保高校の存在価値もさらに高まっていくと私は強く信じています。

にかほ市長
市川雄次